

## 1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

\* 上段は前期比在庫増減、中段 [ ] は在庫水準、下段 ( ) は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。  
点線内は全鉄連による予想数字 ( ) 内は誤差率=予想値÷実績

平成30年2月末	平成30年5月末	平成30年8月末見通し	平成30年11月末見通し
+72千トン [ 2249千トン ] (98.7%)	+93千トン [ 2342千トン ] (108.2%)	-24千トン [ 2318千トン ] (99.0%)	-47千トン [ 2271千トン ] (98.0%)
2220千トン (99.6)	2294千トン (98.0)	*	*

## 2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成30年3月末	平成30年6月末	平成30年9月末見通し	平成30年12月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は86,300円で前年比+9,400円、前期比では+4,100円。荷動きは期待した程、動かなかった。市場には一服感が漂い、需給タイト感は薄れた。そのなかにあつてメーカーは一貫して値上げ指向を堅持し、更なる値上げで流通はその対応に追われた。値上げ転嫁は難航し、粗利低下により先々の採算確保に苦慮した状態となった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は87,200円で前年比+9,300円、前期比では+900円。需要は建築関係中心に堅調ながら店売りの荷動きが盛上らず全般的に横ばいで推移した。販売単価を押し上げるほどの盛上りは感じられない。需給のタイト感はなくなり、なんとか均衡を保っている状態であった。	8月は稼動日数減で前月比売上数量は減少したが、日割りでは横這いか微増であった。また、8月猛暑の熱中症対策で材料遅れなども一部で生じている。建設中心に需要は堅調だが、人手不足や運送問題で工期遅れなどが起きている。また、関西の台風や北海道の地震の影響が各地に出てきている。10、11月と景況感が復調になる需要期前に価格転嫁を急がないと収益悪化は免れない。	建設土木中心に需要は堅調に推移していきだろう。中小物件も動きだし年末にはピークを迎えるのではないかと。総体的に需給はタイト化の方向にあり、価格動向は上昇基調を辿ると予測される。副資材などのコストアップ要因でメーカーの更なる値上げも考えられる。いまだ、価格転嫁の積み残し分もあり、流通は危機感を持って価格を適正水準に上げていかなければならない。

## 3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流通調査8月結果によると在庫量は246,589トン前月比-2.2%と減少しているが、前年同月比+7.9%と増加している。全体的に需給はほぼ均衡だが、厚板に若干タイト感が出てきた。多品種の中でコラムのみが飛びぬけてタイト感を増している状況である。6月末の薄板3品在庫は440万7千トン、7月末の速報値は420万5千トンで20万2千トンの減少となっている。未だ高い水準の在庫量になっていることに変わりない。8月も在庫は増加傾向で決して良い方へ向かっていると限らない。今後、秋需にふさわしい引合いが出てくれば、市中在庫は減少していくのではないかと。

## 4. 大阪、愛知の動向

(大阪) お盆明け以降、公共土木工事の着工で、土木サイズを中心に動きが出てきた。鉄骨需要は引き続き好調。しかしながら、メーカーの値上げを転嫁していかなければならないが、販売単価を押し上げるほどの荷動きはない。ユーザー・ゼネコンは様子見に徹し、市場は膠着状態に陥り、引き合い成約共にパタッと止まっている。来期は、中小物件を中心によりやく動きが出てきそう。公共土木工事についても、動きが出てきそうな感じで今後の動きに期待したい。

(愛知) 4-6月の動きが例年になく良い。7-9月も変わらず需要は好調。8月は例年の季節要因で毎年落ち込む。今年も7月比で10Pダウンしたが、例年ならば盆前の駆け込みが出て、盆明けにかなり落ち込みがでる。しかし、今年は4月からの好調な動きを受けて、盆前が7月比横ばい、盆明けも落ち込みがかなり少なかった。日数減で月の数量は落ちたが、日当たりでは7月比横ばいの状況。自動車、工作機械共に好調で、鉄骨は相変わらず堅調に推移しているが、市中にタイト感は全くない。特に薄板は余剰感が出ている。条鋼に関しても一般形鋼に余剰感あり、H形鋼の市況にも影響を及ぼしている。仕事のボリュームは一定量あるが、加工頼りで、こなせる仕事量も一定に推移してしまう。また、8月に関しては、猛暑により暑さ対策、熱中症対策により生産性が落ちたのも原因と思われる。